



特別活動プロジェクト研究通信(No.4)

「なりたい自分に向けてがんばる力」を育てる小学校の特別活動
—学級活動における個々の意思決定とそれに基づく実践の充実を通して—

9月19日(木)、A校にて第6学年Z教諭による実証授業および研究協議会を開催しました。授業の内容や子どもたちの様子、研究協議で話し合ったことを中心にお伝えします。

第6学年 学級活動(3)イ「思い出に残る運動会を目指して」

つかむ		<p>手立て アンケートやこれまでの取組の様子を映した写真等の提示</p> <p>ねらい 自分たちの現状を客観的に把握する</p> <p>事前にアンケートを実施し、「現時点で最高学年として取り組んでいることはどんなことですか」という質問の結果から、これまで1年生との掃除や登校など様々な場面で努力してきたことを共有しました。また下学年をサポートしている様子を映した写真や、1年生からの感謝のメッセージを見ることで、自分たちの頑張りや成長を振り返りました。</p>
さぐる		<p>手立て インタビュー動画の提示 「なりたい自分の姿」の共有</p> <p>ねらい 「なりたい自分の姿」を考える</p> <p>1年生の担任の先生からの、これまでの取組に対する感謝の言葉や運動会における期待の言葉を綴ったビデオレターを見て、改めてどんな運動会にしたいかを考えました。全体交流の中で「全力」「やりきる」「あこがれ」などのキーワードを共有しました。その後、これまでに書いた卒業のゴールイメージを参考にしながら、運動会を通してどんな自分になりたいかを考え、【なりたい自分になりまシート】に書きました。</p>
見つける		<p>手立て 「目標ボード」の活用</p> <p>ねらい 仲間との話し合いを生かして考えを広げる</p> <p>「なりたい自分の姿」になるための具体的な取組を付箋に書き、【目標ボード】に貼りながらグループ交流を行いました。友だちの考えを参考にしながら、「1年生の椅子運びを手伝う」「声を出して下学年を引っ張っていく」「下学年がわからないことを教える」「そうじで困っていたら手伝う」など、様々な目標を書きました。</p>
決める		<p>手立て 「なりたい自分になりまシート」の活用</p> <p>ねらい 自分に合った具体的な解決方法(目標)を決める</p> <p>【目標ボード】を参考にしながら、「自分に合っている目標はどれか」「具体的に取り組める目標はどれか」という視点で自分の目標を選びました。自分の目標を決めたら【なりたい自分になりまシート】に「自分の目標」と「目標の理由」を書きました。</p>

研究協議より

①児童は問題意識をもつことができたか

- ◆ アンケートの結果だけでなく、写真や動画があることで、自分たちの姿を客観的に振り返ることができた。
- ◆ 1年生の担任の先生の動画を見ることで、「下学年のために」という視点をもつきっかけとなった。
- ◆ 「学校のために」「憧れの存在になりたい」という雰囲気が少しずつ醸成されていった。

②児童は「目標ボード」を活用することで考えを広げることができたか

- ◆ 困っている子どもは、「目標ボード」に書かれた友だちの目標を参考に使っていた。
- ◆ 付箋に書いて貼ることで自然な交流が生まれていた。
- ◆ 指導者が途中で全体交流の時間をつくり、「日常で取り組めること」という新たな視点に気付けるようにしていた。運動会でどうしても頑張れない子どもが考えやすくなる手立てだった。

③児童は「なりたい自分になりまシート」を活用して、自分に合った具体的な目標を決めたり、「なりたい自分の姿」に関連した目標を書いたりすることができたか

- ◆ 児童が「自分の目標」を書く際、指導者が「『自分の目標』とは『なりたい自分の姿』になるために具体的に取り組むことです」と、「なりたい自分の姿」と「自分の目標」の関係性を丁寧に説明していた。そのため、多くの子がその関係性を意識しながら「なりたい自分になりまシート」に目標を書くことができた。
- ◆ 以前に子どもが書いた卒業のゴールイメージと本時の運動会での「なりたい自分の姿」が結びついていない子どもが見られた。(運動会)×(最高学年)の姿とは何かが分かる写真やエピソードがあるとよい(例 全校で並ぶときにビシッと並ぶ 応援で全校をひっぱる など)
- ◆ 目標が具体的に書けていない子どもも見られた。今後の「やる気アップ交流会」で取組を振り返り、前向きな気持ちで修正や追加をできるとよい。



研究員の編集後記 「『憧れの存在になりたい』Aさん」

αさんの「なりたい自分の姿」は「憧れの存在」でした。αさんは、そんな自分になるための目標を付箋に書き、「目標ボード」に貼っていきます。真っ先に書いた目標は「憧れの存在になる」。二枚目の付箋を取り、次に書いたのは「かっこいい存在になりたい」。素敵な考えですが、これは「なりたい自分の姿」であり、具体的に何をするのかはまだ見えてきません。αさんは「目標ボード」にどんどんと貼られていく友だちの目標をじーっと見つめます。そして書いたのが「大きな声でチームを引っ張っていきたい」。明らかに具体的な目標に変化しました。

最終的に「なりたい自分になりまシート」に書いた自分の目標は「運動会当日は声がかれるくらいまで声を出す」。αさんの目標がここまで具体的に变化したのは、Z先生の講じた様々な仕掛けがあったからこそだと感じました。授業終了のチャイムと共に聞こえた、αさんの力強い「できた！」の声がか心に響きました。きっと多くの子どもが自分なりに目標を立てられた充実感があったのではないかと思います。

しかしZ先生は言います。「まだまだ具体的ではない目標や当日だけの目標を書いている子がいる。『やる気アップ交流会』で取組を振り返ったり、友だちとアドバイスをし合ったりする中で、よりよい目標を見つけてほしい」。「なすことによって学ぶ」のが学級活動であり、子どもたちの学びはむしろここからがスタートです。憧れの存在を目指す六年生の想いが、全校の子どもたちに継承され、「A校プライド」が育まれていく。そんなことを感じさせてくれた授業と子どもたちの姿でした。

今回の公開授業を開催するにあたり、Z先生を始め、A小学校の先生方に御尽力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

滋賀県総合教育センター 研究員 中波 慎

